

保育の豊かな「環境の構成」事例集

伊丹市保育環境構成のてびき

子どもが『夢中になって遊び、よく考える』環境の構成

豊かなふれ愛でひろがる幼児教育
～「愛情」「自然」「ことば」を柱に据えて～



伊丹市立幼児教育センター

はじめに

保育所（園）、幼稚園、こども園における乳幼児期の教育・保育は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されているように、「環境を通して行う教育」が基本です。

「環境」とは、「人・もの・こと」と言われ、人的環境、物的環境、事象等、乳幼児期の子どもの身の回りにあるものすべてを指します。

保育を行う際に、それらをどのように準備をするとよいのでしょうか。それは、子どもの発達段階、個々の興味や関心、季節や事象等を踏まえて、各園所の保育計画に基づき準備をしていくことが基本です。

このように、乳幼児期の教育・保育は「環境」を通して行い、「遊び」を通して総合的に支援し、子どもの発達を促していくものです。保育者は「環境」や「遊び」の中に教育的価値を含ませます。それは、子どもの視点からみると自由感あふれる保育であり、そのような「環境」や「遊び」のある生活こそ乳幼児期にふさわしいと言えます。

本てびきは、伊丹市幼児教育ビジョンにおける3つのキーワード「愛情・自然・ことば」と、育てたいこども像である「夢中になって遊び、よく考える子ども」に視点を置き、日々の保育における「環境」を具体的にどのように構成するとよいか、本市の幼児教育・保育施設の現場の実践をもとにまとめたものです。本てびきが、各園の日々の保育における環境の構成の手がかりとなることを期待しています。

また、本てびきをきっかけに小学校以上の学校関係者、保護者や地域の皆様にも「環境」や「遊び」を窓口に幼児教育・保育への理解を深めていただける一助となればと願っております。

令和4年（2022年）9月

伊丹市教育委員会事務局　こども未来部　幼児教育保育室
幼児教育センター



目 次

| | | |
|---|------------------------------------|----------|
| 1 | 第1章 伊丹市幼児教育ビジョンについて | ・・・P.1 |
| 2 | 第2章 環境の構成をどのように考えるとよいか | ・・・P.3 |
| | (1) 教育・保育における「環境」 | |
| | ～教育・保育的価値を含めた意味のある「環境」として～ | |
| | (2) 伊丹市が目指す豊かな保育環境 | |
| | (3) 保育計画を踏まえ、環境の構成をどのように考えていくのか | |
| 3 | 第3章 0歳児から2歳児までの保育環境 | ・・・P.6 |
| | 『愛情』『自然』『ことば』と『子どもが夢中になって遊び、よく考える』 | |
| | 「環境」の事例及びチェックリスト | |
| | ・0歳児 | ・・・P. 7 |
| | ・1歳児 | ・・・P. 19 |
| | ・2歳児 | ・・・P. 29 |
| 4 | 第4章 3歳児から5歳児までの保育環境 | ・・・P.40 |
| | 『愛情』『自然』『ことば』と『子どもが夢中になって遊び、よく考える』 | |
| | 「環境」の事例及びチェックリスト | |
| | ・3歳児 | ・・・P. 41 |
| | ・4歳児 | ・・・P. 51 |
| | ・5歳児 | ・・・P. 61 |
| 5 | 第5章 支援を必要とする子どもの保育環境 | ・・・P.73 |
| | インクルーシブ教育・保育を目指して | |
| | 「環境」の事例及びチェックリスト | |

第1章 伊丹市幼児教育ビジョンについて

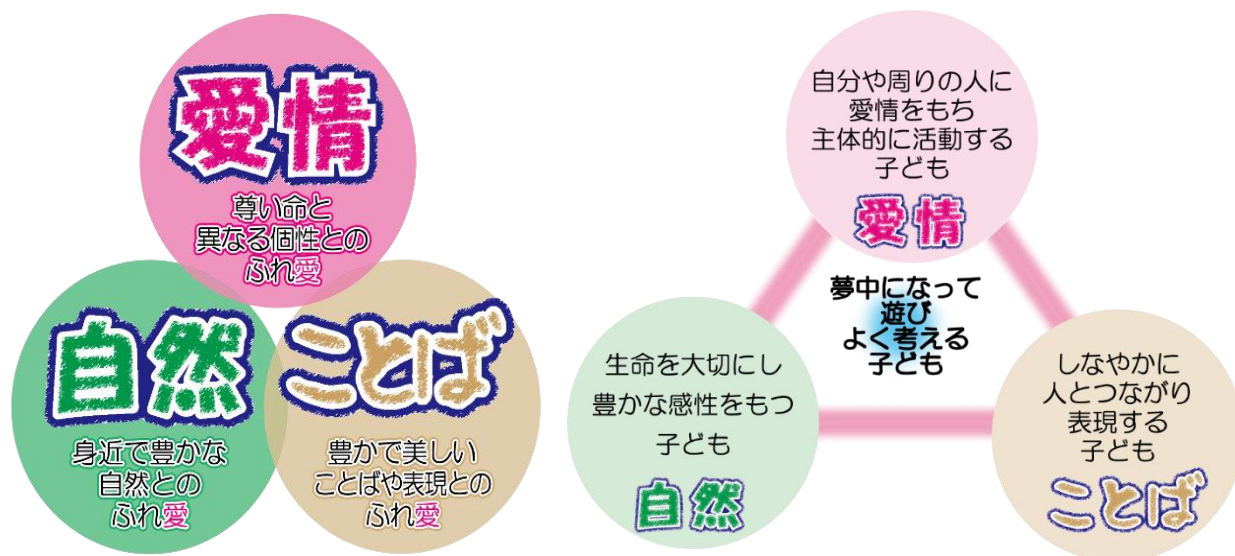
乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる大切な時期です。

乳幼児期の子どもを育むときに大切にしたいことはたくさんあり、国の指針である、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されています。

そのような中、なぜ「伊丹市としてのビジョン」が必要だったのでしょうか。

乳幼児期の教育・保育では、子どもの「心情・意欲・態度」を育むことを大きなねらいとし、国の指針は柔軟かつ多様性があります。だからこそ、国が示す指針を踏まえ、伊丹市の幼児教育・保育において、特に大切にすることを明確にして、質を担保していく必要があると考えました。そこで、伊丹市の地域性を大切にしながら、それらを具現化し、可視化できるものとして「伊丹市幼児教育ビジョン」を作成しました。

「伊丹市幼児教育ビジョン」は、公私立の保育所（園）・幼稚園・こども園など様々な園所の理念や実践の多様性を大切にしつつ、乳幼児期の教育・保育における基本的な方向性を示しています。また、関係者以外にはわかりづらい、「遊びを通して学ぶ」ことの意味についても発信し、まち全体で乳幼児期の子どもの育ちと学びを支えるものでありたいと考えます。



「伊丹市幼児教育ビジョン」大切にしたい3つのキーワード（左）と育てたいこども像（右）

育てたいこども像 ～夢中になって遊び、よく考える子ども～

乳幼児期の子どもが「夢中になって遊ぶ」ことや「よく考える」ことにはどのような意味があるのでしょうか。

「遊び」について、乳児期の子どもは、愛着のある大人への安心感を基地とし、そこから周囲の興味深い物事へ向かって「探索」を始めていきます。手に取り、口に入れたり、叩いたり、振ったり、投げたりしながら「探索」行動を繰り返し、五感を通じてそれらの面白さを感じていきます。

幼児期の子どもは「学びの芽生え」の時期と言われ、学ぶことを意識しているわけではなく、楽しいことや好きなことに集中することを通じて様々なことを学んでいきます。楽しく、かつ楽しさや面白さに触れて遊ぶ中で、試行錯誤を繰り返し、時には友達とぶつかり、折り合いをつける経験をします。

このように、子どもの「遊び」と「よく考える」は両輪で考え、「夢中になって遊び、よく考える」を実現できるような環境をいかに構築するかが重要です。

子どもが「夢中になって遊び、よく考える」ことが実現できる環境と、子どもの主体性を尊重する保育者の適切な支援のもと、「幼児期に育みたい資質・能力」を一体的に育むことが必要です。

また、「夢中になって遊び、よく考える」ことは、小学校以上の学習においても「主体的に学びに向かう」姿勢へとつながっていきます。



「幼児期に育みたい資質・能力」

(保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)

第2章 環境の構成をどのように捉えるとよいか

(1) 教育・保育における「環境」

～教育・保育的価値を含めた意味のある環境として～

教育・保育における環境は「人的環境」「物的環境」「事象等」といった乳幼児期の子ども身の回りにあるものすべてを指します。

「人的環境」・・・保育者、家族、近隣の人々など、それらが形成する人間関係やその中での社会的な役割や地位、それらが醸し出す雰囲気や意識、価値観など

「物的環境」・・・建物や設備、自然物や素材などをはじめ、通信機器や出版物など広く社会文化情動的なもの

「事象等」・・・物理的な事象

(自然事象や社会事象、伝承行事など)

「幼保連携型認定こども園における園児が心を寄せる環境の構成」(内閣府・文部科学省・厚生労働省) 参照

※下線は本市追記

上記の「環境」とは、子どもの身の回りにただ配置するなどして、後は子どもに任せるだけというものではありません。「環境」に教育的及び保育的価値を含ませることが非常に重要です。「環境を通して行う教育」は子どもの主体性と保育者の意図がバランスよく絡み合って成り立つものです。

(2) 伊丹市が目指す豊かな保育環境

「伊丹市幼児教育ビジョン」では、豊かな保育環境として5つの項目をあげています。

○一人ひとりの興味・関心や発達に応じた遊びができる環境

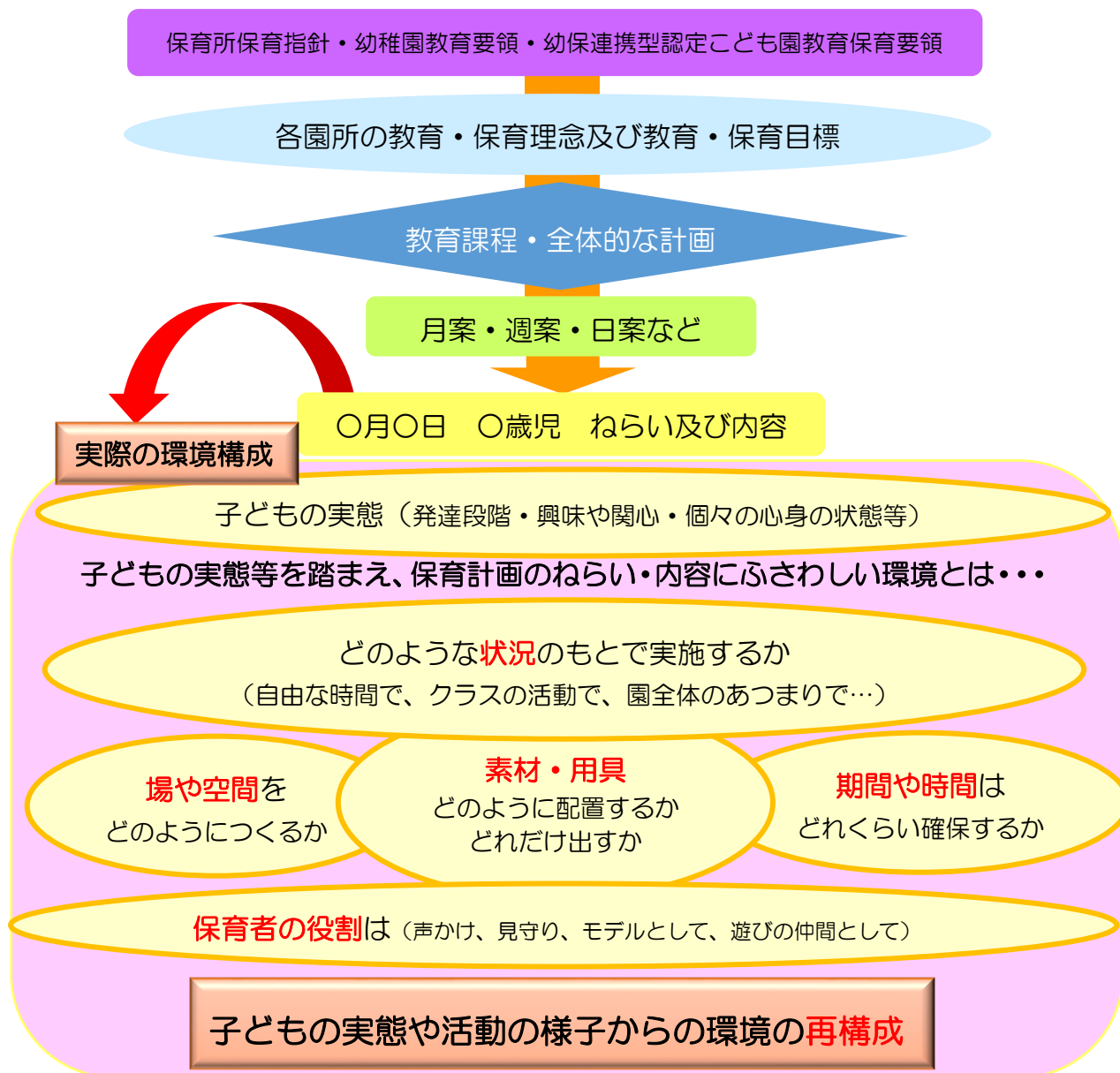
○身近な大人や友達と関わり、思いを伝え合ったり、一緒に遊びを広げたり、時には意見がぶつかり、我慢したり、ゆずり合ったり、集団の中でルールを作ったりできるような遊びとの出会い

○五感(視覚・触覚・聴覚・嗅覚・味覚)をふんだんに使う体験

○身近な四季折々の自然(動植物、水、砂、土、風)などにふれる体験といつでもふれることができる環境

○発達や年齢に応じた絵本や物語がいつでも身近にあり、おとなの温かな語りかけに触れることができるような豊かなことば環境

(3) 保育計画を踏まえ、環境の構成をどのように考えていくのか



大切なことは、子どもの中に興味や関心がわき、関わりたくなるようにするためには、また自分で考えたり、試行錯誤したりしながら、自分で活動を展開していくためには、どのように環境を構成するとよいか、ということです。

保育者は環境に「教育的及び保育的価値」を含ませ、これを言語化、可視化して説明できることが重要です。

